



Title	活動報告 RECNAラウンドテーブル
Author(s)	
Citation	長崎大学核兵器廃絶研究センター年報, 2017, pp.85-86; 2018
Issue Date	2018-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/38404
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-23T12:32:03Z

<活動報告>

「RECNA ラウンドテーブル」

▽吉田文彦

2016年度より多様な識者が核兵器をテーマにしてチャタムハウスルールに基づいて自由闊達に意見交換できる場として開始した「RECNA ラウンドテーブル」を2017年度も継続して実施した。

まず4月17日に東京にて、米国NGOの「憂慮する科学者同盟」(UCS)のグレゴリー・カラーキー博士に「中国と米国の核戦略」について開催した。この段階では、米国のトランプ政権の核態勢見直し(NPR)は作成されていなかったが、トランプ政権の核政策に対する中国の懸念などについて活発な意見交換が行われた。次に8月8日には、平和首長会議出席のため来崎された中泉満国連事務次長軍縮担当上級代表をRECNAに招いて、核兵器禁止条約採択後の核軍縮の進め方や日本の役割について意見交換を行った。

11月15日には、日本の核・原子力政策に詳しい南カリフォルニア大学のジャック・ハイマンズ教授をRECNAに招き、日本の核政策について意見交換を行った。福島での原発事故のあと、米国での安全対策コストが上昇して、原発建設にとって逆風になっている現状などについて説明を受けた。同教授が取り組んでいる核問題に関する歴史研究についてもそのねらうや手法を聞いた。

2018年1月14日には、長崎に招聘したICANのエリザベス・フィン事務局長と川崎哲国際運営委員と、核兵器禁止条約採択後の軍縮の進め方や今後の協力関係について意見交換をおこなった。ノルウェーやオランダなど、米国の「核の傘」に入っている国のなかには、核兵器禁止条約批准のプラス・マイナスを客観的に評価する計画が進められている。こうした動きを日本でも進めることに意義があるなどの議論が行われた。

平成29年度 RECNA ラウンドテーブル

- 【第1回】 日 時：平成29年4月17日（月）14：00～16：00
場 所：参議院議員会館
講 師：グレゴリー・カラーキー博士（米国：憂慮する科学者同盟（UCS））
- 【第2回】 日 時：平成29年8月8日（火）13：00～14：00
場 所：RECNA 会議室
講 師：中満 泉国連事務次長
- 【第3回】 日 時：平成29年11月15日（水）16：00～18：00
場 所：RECNA 会議室
講 師：ジャック・ハイマンズ准教授（南カリフォルニア大学）
- 【第4回】 日 時：平成30年1月14日（日）13：00～14：00
場 所：長崎大学附属図書館医学分館
講 師：ICAN フィン事務局長、川崎 哲国際運営委員